

中学校体育における外部指導員導入の有効性

—現代的なリズムのダンスを事例に—

スポーツビジネス研究領域
5011A076-7 望月 拓実

研究指導員：木村 和彦教授

【研究背景】

2008 年度告示の新学習指導要領において「ダンス」が必修化となった。学校体育におけるダンスは、自ら学ぶ学習や課題解決能力が求められる現代の教育目標を体感しやすい運動領域と推察され、その教育目標が期待されている。特に「現代的なリズムのダンス(以下リズムダンス)」は男女ともに積極的に取り組める種目として注目されている。しかし、中村(2009)は「現代的なリズムのダンスでは『自由に動きを工夫する』という学習指導要領の意図に反して教師の一斉指導による既成の運動技術が教授されたり、ビデオ映像等の踊りを模倣させるだけの授業が展開されていたりと、決して充実した実施状況ではなかった」など多くの問題点を挙げている。これらの問題点に対し、東京都はモデル事業として外部指導員を用いることで解決を試みており、「専門の外部指導員による指導により、生徒に興味・関心をもたせ、リズムダンスの醍醐味を体得させることができた」など外部指導員導入の有効性を述べている。しかしこのモデル事業にも多くの問題点が指摘されており、授業補助の手段として外部指導員が適切であるかの検討はまだなされていない。2012 年より正式にダンス授業が始まることから、リズムダンスへの授業補助として外部指導員を導入することの効果測定することは目下の急務である。

【研究目的】

リズムダンス授業への外部指導員導入の有効性を確かめるために、

1. リズムダンス授業を評価する尺度として

- ①ダンスに対する生徒の態度
- ②学習目標に基づく授業評価 を開発する。

2. 実際の授業に対して開発された評価指標を用いて、外部指導員を導入した授業と非導入の授業を比較分析し、外部指導員導入の有効性を検証する。

【研究方法】

1. 評価指標の作成

まず、先行研究によって採用した徳永ら(1985)の「ダンスに対する生徒の態度」、中村ら(2007)の「学習目標に基づく授業評価」を基に改善すべき箇所を確認した。結果 8 項目と 33 項目が設定された。

2. 外部指導員を導入した授業の作成

これまで問題とされてきた「規制動作の一斉指導授業」

から脱却するために、既成動作を指導した後に、その動作を変化させることで「自由に踊ること」を担保することとした。指導内容は学習指導要領に沿って作成し、学校の教員、ダンス歴10年以上のプロダンサーと相談の元、作成した。また本研究では作成した授業を後述のT中学校に導入する。

3. 比較調査

指導内容を導入する調査校以外に、外部指導員を導入していない学校と外部指導員を導入している学校 1 校ずつに調査を行う。3 校の比較を行うことで、まず外部指導員の有無による差を測定する。また外部指導員を導入した学校同士で授業内容によってどのような差が生じるかも測定する。

【調査概要】

・調査期間：2012 年 10 月 31 日～12 月 13 日

・調査対象校：

N 中学校 外部指導員なし 女子126人

T 中学校 外部指導員あり 女子164人 男子134人

O 中学校 外部指導員あり 女子 98 人

N 中学校は決まった動きを強制していない為、極めて創造性を重視した指導内容といえる。T 中学校は決まった動きを指導しながら、必ず決まった動きを使って創作を行わせるいわゆる「応用」を行っている。O 中学校はすべての時間でリズムに乗ることを重視しており、発表についても「発表会ではなく、リズムの乗り方を参考にする」とあくまでリズムに乗ることを重視している。以上が各調査対象校の指導内容の特徴である。

・調査方法：質問紙調査

「ダンスに対する生徒の態度」は授業期間前後で測定した。「学習目標に基づく授業評価」は授業期間後のみ測定した。

【分析方法】

「学習目標に基づく授業評価」は探索的因子分析を用いて分析を行った。授業評価は一元配置の分散分析を行い、態度の比較については、3 条件(学校間)×2 地点(授業前後)での反復測定を行った。

【結果と考察】

1. 学習評価に基づく授業評価因子の抽出

探索的因子分析の結果、「リズム・創作因子」「技能と理解因子」「仲間と関わる因子」「楽しむ因子」の 4 因子

26項目が抽出された。

2. 外部指導員の導入が授業評価に与える影響

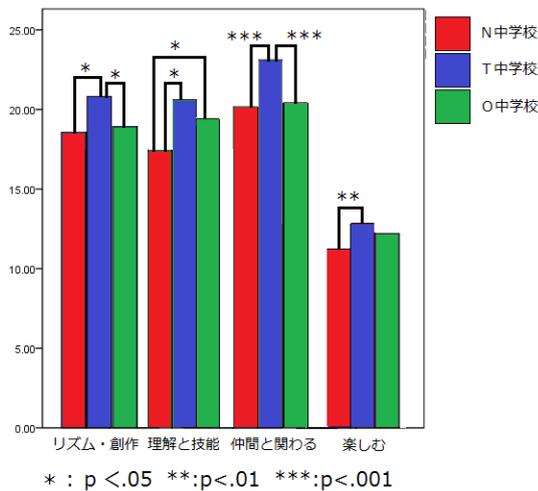


図1 学習目標に基づく授業評価の分散分析 (因子別)

外部指導員なしの学校と外部指導員ありの学校を因子得点ごとに比較した。その結果すべての因子で外部指導員導入の評価に有意差がみられた。また項目ごとに比較した際も、すべての授業評価で平均値が高い結果となり、外部指導員導入の有効性が示唆された。特に「仲間と関わる因子」については有意に高い項目が多かったことから、これまで指導が難しいとされてきたグループ活動や創作により影響を与えることが示唆された。

また外部指導員あり同士の比較を行った所、「音楽の選択」「表現する楽しさ」「踊る楽しさ」に有意差がみられ、O中学校が高い結果となった。創作や発表に重きを置く指導内容よりも、リズムに乗ることに重きを置いた指導内容が授業の楽しさを感じさせることが明らかとなった。

3. 外部指導員の導入がダンスに対する生徒の態度に与える影響

ダンスに対する生徒の態度については「スポーツ」という言葉を「ダンス」に置き換える以外の変更は行わなかったため、快感情因子4項目、不安感情因子4項目合計2因子8項目となった。

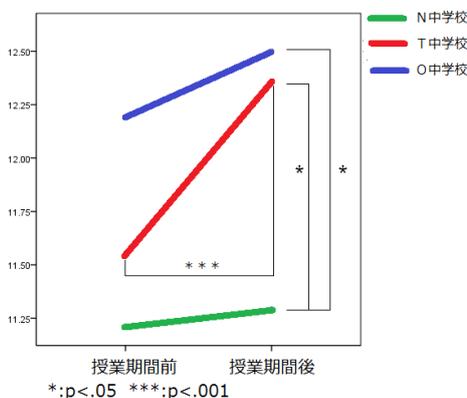
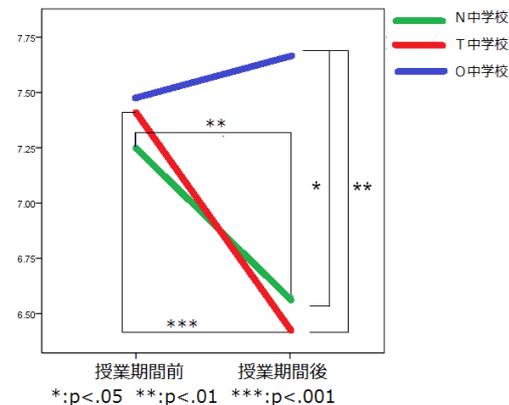


図2-1 ダンスに対する生徒の態度 (快感情因子)

快感情因子では学校の主効果がみられ、外部指導員導入による指導内容の差がダンスに対する生徒の態度に影響を与えることが示唆された。



不安感情因子では学校の主効果がみられなかったが、交互作用に有意差がみられたため、単純主効果検定を行った。その結果、N中学校とT中学校に有意差がみられた。項目ごとの分析では不安感情因子すべてにおいてT中学校に主効果がみられ、外部指導員を導入した授業を行うことにより、ダンスに対しての不安感情が低くなることが示唆された。

【結論】

1：外部指導員なしの学校と外部指導員ありの学校を比較した際、すべての授業評価で平均値が高い結果となり、外部指導員導入の有効性が示唆された。特に「仲間と関わる因子」については有意に高い項目が多く、これまで指導が難しいとされてきたグループ活動や創作により影響を与えることが示唆された。

2：創作や発表に重きを置く指導内容よりも、リズムに乗ることに重きを置いた指導内容が授業の楽しさを感じさせることが明らかとなった。

外部指導員を導入した授業を行うことにより、ダンスに対しての不安感情が低くなることが示唆された。

【課題と展望】

今回比較した中学校は授業時間に大きな差があり、授業環境や内容、目標も異なるため、必ずしも外部指導員導入の効果のみを測定できるとは言い切れない面がある。今後はより統制された環境・条件のもとでの研究が望まれる。

また、ほぼ同時期に各学校が授業を行っていたため、筆者自身が外部指導員として参加した学校以外の実際の授業はほとんど見ることができず、指導内容については映像資料と指導案、教員からの聞き取りをもとに把握したうえで比較を行っている。今後は複数人で調査を行うなどして、指導内容の正確な把握に努める必要がある。